

社会福祉法人あすなろ福祉会の活動



1 あすなろ福祉会のあゆみ

障がいがあっても働きたい。誇りが持てる仕事がしたい」というメンバーの切なる願いに応えるため、自主製品である石けんの開発に取り組み、多くの市民の方々の賛同・協力を得て、平成7年「リサイクル石けんセンター」という、作業所から立ち上った地域立地型の小規模な社会就労センターが誕生しました。

平成9年には、県内で初めて精神障害者地域生活支援センターとして認可され、「リサイクルせっけんセンター」に附置する形態で「ぱる・おかやま」の活動を始めました。岡山は、医療を核として密度の高い精神保健福祉サービスが提供されている地域です。医療を背景とせず、入院機能も持たない社会就労センターや地域生活支援支援センターで、精神障がいのある方々が地域の一員として、あたりまえの生活を築くために何ができるのか、何を求められているのかを、試行錯誤しながら活動を続けてきました。

あすなろ福祉会の目指してきた活動の使命は、「リカバリーを促進するサービスやコミュニティを作っていく」ことです。「リカバリー」とは、生活上の困難な状況から、自ら主体的に、新たな人生を構築していき、その人なりの生きがいや生活を取り戻していくことを意味しており、希望を持つというのは重要な要素です。

法人設立時より私たちスタッフには、メンバーを障がい者として捉えて築く専門職業的対人関係ではなく、人として受け止め、人としての良さを「信じて・待つ」、関係性のあり方が問されていました。障がいのある仲間たちへのより深い理解とそして何よりリカバリーの可能性や希望を大切にした姿勢は、「あすなろしさ・・」として、今日まで大切に受け継がれています。

これまで、通所授産施設、地域生活支援センター、クラブハウス、グループホームと、地域生活支援を充実させるための支援を充実させてきました。現在では時代の流れとニーズに合わせ、施設形態やサービス内容を変化させています。

これまでの活動において「リカバリー」を遂げた仲間たちは、次々に他の仲間たちの支えてとして「希望は伝染」していきました。リカバリーは一人でなされるものではなく、仲間と共に歩むことで、お互い影響を与えることができると実感しています。

「自分に誇りを持ち、自分らしく、自分自身の人生と自ら生きる希望を回復（リカバリー）し、勇気をもって初めの一歩を踏み出す」場と時間と支えの提供があすなろ福祉会の軸となる「サポート」です。人と人のつながり、地域とのつながりに支えられ、多くの方々のお力添えにより、これまで活動を続けることができました。障がいのある仲間たちが、豊かで生きがいのある人生を送ることができるような社会を築いていけるよう、皆さんと共に様々な垣根を越えて、想いや信念を形にした活動を続けていきたいと考えています。

2 私たちの目指すもの

住みたい地域で安心して暮らすことができ、生きがいを感じられる生活の場づくり自分らしさが尊重され、人としての誇りと自信を取り戻せる居場所づくり温かさ・優しさ・人としての絆を大切にした、誰もが生き生きと暮らすことができる地域づくり。

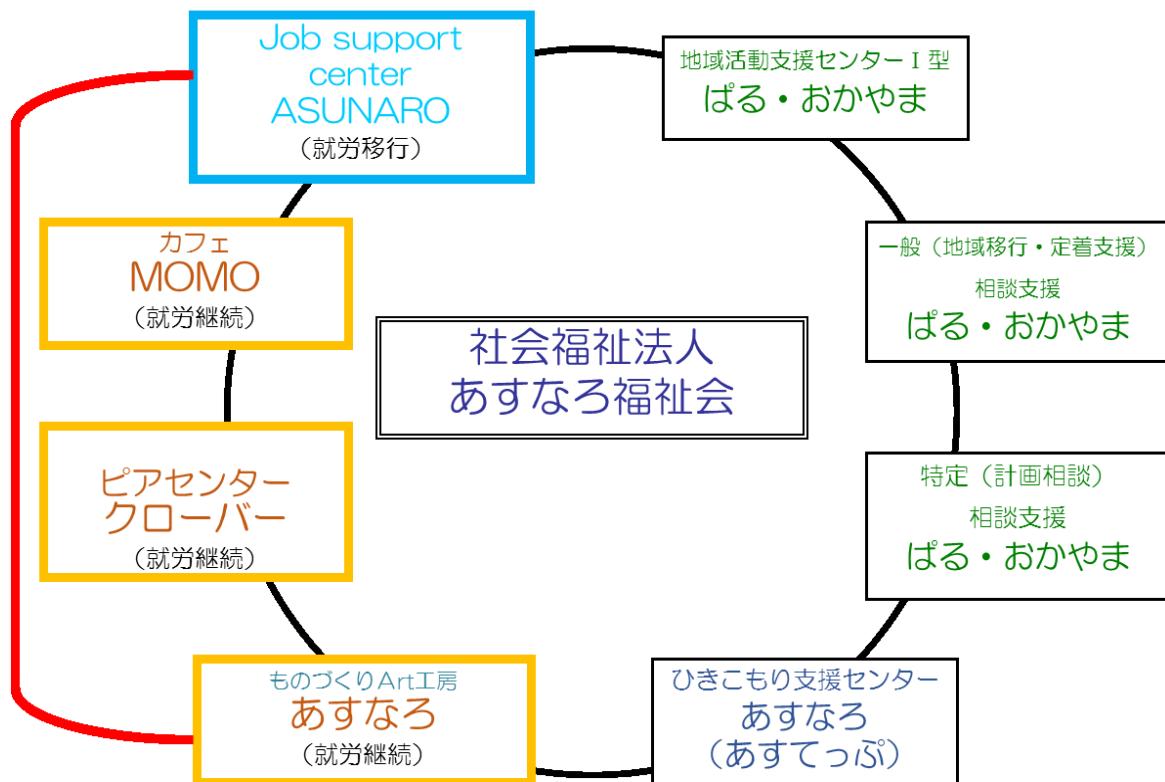
3 活動のキーワード

Recovery リカバリー & Support サポート & Hope ホープ

リカバリーとは、「精神障害のある人が、それぞれ、自分が求める生き方を主体的に追求すること」であり、症状をなくすことではありません。治療によって症状を和らげることはもちろん必要ですが、何より大切なのは、本人が、こういう生活がしたいという夢や希望を持ち、それを周囲が支えることです。したがって、症状が残っていても、夢や希望をもち主体的に生きることは可能です。

精神障がいのある方が、人としての誇りと自信を回復し、何よりも自分の希望・要求・意思に基づいて、人に気兼ねすることなく、臆することなく、自分らしい人生を歩んでいけるよう私たちはサポートします。

4 事業体系





5 ジョブサポートセンターあすなろ（J S C A）

平成 7 年開設された、「リサイクルせっけんセンター」が前身です。平成 20 年、IPS モデルを取り入れた就労移行支援事業所として、現在の事業所名に変更しました。

仕事探しへの道のり・働き方は、人それぞれです。当事業所では、障がいのある方の、これまでの経験、興味や関心といった「ストレングス（強み）」に焦点を当て 1 人ひとりに合った「仕事探し」をご提案させて頂きます。同じ「悩み」「不安」「目標」を持った仲間がいるから頑張れる！！ そのような「場所」の提供を行っています。

就労支援に力を入れ始めた平成 17 年以降毎年、**就労移行支援事業定員に対し 80 % 以上の高い就労率**を誇っています。

平成 16 年、アメリカで実践されていたすぐれた就労支援モデル、IPS のノウハウを学ぶためアメリカでの研修を行い、それを日本に持ち帰りスタッフで共有することで、これまでの就労支援の在り方を大きく見直し、スタッフの意識改革を行いました。その結果、就労者数が急激に増加し、今までそのモデルは継続して取り入れられています。

IPS モデルを取り入れた就労支援

「どんなに重い精神障害を持つ人々であっても、本人に働きたいという希望さえあれば、本人の興味、技能、経験に適合する職場で働くことができる。働くこと自体が治療的であり、リカバリーの重要な要素となる」という信念に基づき 従来の「train then place : 訓練してから就労する」ではなく、「place then train : 就労してから練習する」というプロセスを重視し、高い就職・定着率を可能にしています。

IPS モデルは、精神障害を持つ人に対して、従来の職業リハビリテーションサービスよりも高い就労アウトカムをもたらすというエビデンスが確立しています。特に、IPS モデルでは、従来は働くことができないと考えられてリハビリテーション施設や地域施設に留め置かれていた、重い精神障害を持つ人でも競争的雇用に就くことができる可能性が示されています。

〈 IPS の基本原則〉

1. 働きたいと思うすべての精神障害者が対象

障害が重いことや、支援者側の視点による「意欲の低さ」「不安定さ」などで除外されない。

2. 就労支援の専門家と精神保健福祉の専門家は チームとなり支援する

3. 一般雇用（一般企業や公的機関等事業体の障害者雇用を含む）を目標とする

4. 社会保障（生活保護・障害年金など）に関する相談サービスを提供する

5. 働きたいと本人が希望したら、迅速に求職活動を始める

6. 就職後のフォローアップは継続的に行われる

7. 利用者の好みや希望に基づいて、支援者は企業関係者とコンタクトをとり関係づくりを行う

8. 以上1～7は利用者の好みや希望が優先される

IPSは「失敗させない支援」ではなくチャレンジを促進する支援

IPSモデルが地域で実際に運用され、効果を上げるために、サービスの質を保証する必要があることから、BondらはIPS-15というフィデリティ尺度を開発しました。日本においては、IPS-25の日本語訳版が紹介されています。日本におけるIPSに基づく就労支援の評価ツールとして位置付けています。

平成26年から毎年、外部機関によるフィデリティ調査を受け、サービスの質の保証に努めてきました。平成28年度のフィデリティ調査の結果は、125点満点中、107点という大きな評価を頂きました。

主な支援内容

◎施設内プログラム：就労のために必要な就労セミナー、ビジネスマナー、コミュニケーションなどの講座やSST、自己理解をすすめるWRAPやSSTなどの座学を行います。

◎施設外プログラム：週に2～3回、グループで「一般企業」に出向き、仕事をします。仲間やスタッフがいるので、安心して働けます。また、施設内で学んだビジネスマナーを実践することができます。

◎ジョブコーチ支援：ジョブコーチという専門の資格を持ったスタッフが、障がいのある方や企業の調整役としてサポート致します。

◎就職後のフォローアップ：採用決定後も、継続して支援します。定期的な職場訪問、業務内容や勤務時間などの調整、やむを得ず、離職に至った後の再就職支援、就労以外の生活相談などを行います。



ワークショップ



ジョブコーチ支援



6

地域活動支援センター
ぱる・おかやま

地域活動支援センターぱる・おかやま

「ぱる・おかやま」は、平成9年、県内で初めて、岡山市での精神障害者地域生活支援センター可され、事業を開始しました。開設当初は、医療を背景とせず、入院機能も持たない社会福祉法人が行う地域生活支援事業として何が出来るのか、何を求められるのか五里霧中のスタートでした。「全面オープン・来るもの拒まず」をスタンスとした事業内容は、24時間の相談支援活動、生活支援、地域に密着した地域交流活動を主な活動として位置づけました。更に、情報発信にも努め、シンポジウムや啓発活動を主としたイベントを定期的に行いました。毎月発行される通信（ぱる通信）は現在まで継続されています。

平成27年、現在の表町に事業所を移転し、街中の便利な場所にあり、病状などに関わる精神科医療に関わる相談や日常生活や対人関係上の悩みなど、「気軽に、気兼ねなく、安心して、無料で」相談でき、仲間で集う事が出来る場になっています。

活動目標

リカバリー＆あたたかい街づくり

傷ついた自尊心を回復し、夢・希望をもって自分らしく生きていくよう応援

人としての誇り、自分が自分であることへの自信、人とつながることの喜びと信頼感、安心とゆとりと、社会と再び関わる勇気の回復をゆったりと見守り、喜びもつらさも分かり合えるよう応援します。

障がいのある人もない人もお互いに認め合い、助け合えるあたたかい街づくり

当事者の方を生きにくしているものの一つは「偏見」。それは、病気や障がいを正しく知らないことから生まれるものです。当事者の方の本当の姿を知つてもらうきっかけになるイベントや交流など、様々な取り組みを行いながら、互いの違いを認め合い、支え合える街づくりを目指します。

主な活動内容

◎悩み相談：日々の生活で不安に感じていること、困っていること、経済的なこと、福祉サービスの利用などについて、電話・来所・訪問相談を行っています。

◎生活サポート：日々の生活を安心して過ごすことができるよう、「医・衣・職・食・友・住」に関わることなど、必要なサポートを行っています。

◎交流スペース：お抹茶教室、ソフトボール、手芸サークル、パソコン教室などのサークル活動を行っています。また、お花見、山登り、キャンプ、忘年会など季節にちなんだイベントを企画しています。

◎地域交流：地域の盆踊りやイベントへの参加、講演活動を通じ、様々な方と交流しています。

◎ピアサポート活動・当事者活動支援：ピアセンター「クローバー」と連携し、より良い居場所作り・仲間作りを支援します。また、当事者自身が発言できる場・表現できる場を作り、誰もが生き生きと暮らすことができる地域づくりを目指します。

【調子はえ～んじやフェスティバル 2002年～2015年 6回開催】

「調子はえ～んじやフェスティバル」とは、当事者が主体となり企画、運営し、当事者自身が自分の能力・主張を行いうべで、「リカバリー」の普及を目指しています。2002年から始まり、2015年までに6回開催しています。

「調子はえ～んじやフェスティバル 2015」では、「つなぐ つながるこころ ～ありのままの自分で～」というテーマのもと、ゲストにベニシア・スタンリー・スミス氏をお招きし、シンポジウムを開催しました。また、自主制作された映画上映を行いました。『ありがとうⅡ～愛(こころ)を伝える映画～』と題し、今回で2度目の映画製作となります。

当日は多くの関係者が集まり、大盛況に終わっています。



当事者活動「ピアセンタークローバー」：市内で唯一のピアサポートを行っている団体で、地域で生活している精神障害者の回復や、入院している人の地域移行などを行っています。主な活動内容は、相談支援（電話、来所、訪問）、家事援助、講演活動、ピアソーター養成講座講師です。



電話相談



ピアソーター講座

◎情報発信：情報誌「ぱる通信」を発行し、地域での暮らしに役立つ情報を提供しています。

◎家族交流会：家族交流会（2ヶ月に1回）を開催し、悩みを語り合い、交流することで家族自身が元気になり、前向きに歩いていけるように、ご本人のよき理解者であるように…とサポートしています。

◎指定特定相談支援事業（計画相談）

障害福祉サービス等を利用する際に必要な「サービス等利用計画」を作成します。ご本人の生活の希望や悩みごとをお聞きし、現在の状況をふまえて計画を作成し、定期的に振り返り（モニタリング）を行います。

◎指定一般相談支援事業（①地域移行・②定着支援事業）

①地域で1人暮らしをしている方、もしくは同居のご家族に病気や障がいがあり、支援が見込めない方に対して、緊急時の支援体制を整え、安心して生活できるようサポートします。

②長期に渡り障害者支援施設等に入所している方、または精神科病院に入院している方が、地域生活へ円滑に移行する為の相談や必要な支援を行います。

現在、計画相談、地域定着の利用者は77名（H28年3月）。2名の常勤スタッフと1名の非常勤スタッフで担当している。新規の場合、初回支援計画後、2ヶ月後にモニタリング、平成28年度からは、初回から6ヶ月毎にモニタリングを行っています。地域定着については、緊急時に訪問し対応。携帯電話を所持し、常時連絡がつくように体制を整えています。

7



MOMO / 焼き菓子と雑貨MOMO

平成9年、「街中に」「気軽に集まれる場を」「おしゃれな喫茶店をつくりたい」。そんな願いにこたえて、岡山市北区表町にオープンしました。家族会と協力しあい募金を訴え、1階が喫茶店、2階、3階がフリースペースとなっている「MOMO」を立ち上げました。開店後は、「ぱる・おかやま」の電話相談で顔の見えなかつた利用者たちが顔をのぞかせ、当事者同士の交流も見られました。一般市民の来客も増え、障がいの垣根をこえた、自然に交流できる場となりました。

現在では、「café MOMO」として、コンシューマースタッフのシェフによる創作料理を目当てに来客される、一般のお客様も多く見られます。

平成27年には、「焼き菓子と雑貨 MOMO」をオープンさせ、お菓子作りを更に充実させています。

現在、約30名の利用者が、喫茶やお菓子づくりを行っています。

Café MOMO



日替わりランチ

焼き菓子と雑貨 MOMO



ひきこもり支援センター あすてっぷ

ひきこもりは、ここ数十年に渡り日本の大きな社会問題の一つとして注目されてきました。2005 年度の調査で出ている数字では、日本国内のひきこもりの人数は 160 万人を超え、稀に外出するが家にいることが多いレベルの、準ひきこもりまで含めると 300 万人以上に上ると言われています。

また近年では、ひきこもり期間が数年以上に長期化した、40 代や 50 代の中高年層のひきこもりの人数は、約 80 万人にのぼるとも言われ、長期、年長のひきこもりの方への独自の支援も求められています。

厚生労働省では、平成 21 年度から、「ひきこもり対策推進事業」を創設し、ひきこもり対策に取り組んでいます。この事業の一つに、ひきこもりに特化した専門的な第一次相談窓口としての機能を有する「ひきこもり地域支援センター」を都道府県、指定都市に設置し運営することとされており、岡山市においても「岡山市ひきこもり支援センター」の運営を開始しています。ひきこもり状態にある本人、家族等による、来所等による相談や家庭訪問を中心とした訪問支援を行い、早期に適切な機関につないでいきます。

「ひきこもり支援センターあすてっぷ」は、平成 26 年 9 月、「岡山市ひきこもり支援センター」の一部の業務を受託し、プログラム活動を通して自信をつけ、一歩踏み出せる場を提供し、その人に合った社会参加支援を行っています。

主な活動内容

◎ほっこりプログラム（静）：ゆったりしたくつろげる空間で、それぞれのペースで過ごせるプログラムです。みんなでお茶を飲みながら自分のこと、仕事のこと、家族のこと、悩みや不安、夢や希望などを話したり聞いたり…自分なりの方向性や考えに出会う時間です。

◎わくわくプログラム（動）：ワクワクすることや、体を動かしてリフレッシュできる活動的なプログラムです。1 人ではちょっと億劫だな…と思うことも、みんなとやれば「おもしろい！できた！」が待っています。集団の活動に慣れたい人、体験を通して出かけるきっかけを持ちたい人、とにかく一緒にやってみましょう！



レクリエーション（バーベキュー）



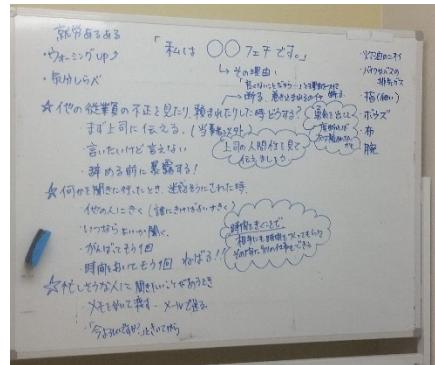
フットサル

◎あなたのためのプログラム（個別）：定期的に個別の面談を行います。1 人ひとりの「○○したい」を大切にしたプログラムです。不安や悩みを整理したい、大人数では無理だけど 1 人でも外に出かけるきっかけが欲しい、などあなたの「今」の一歩を一緒に考えます。

◎働くためのプログラム（就労）：「働くこと」について、「知って（マナー講座など）」「見て、聞いて（見学）」「やってみて（体験）」等、就労への準備をしていくプログラムです。自信がついて、仕事への一步を踏み出したいという方へは、求職活動支援・就労後のサポートも行います。



スーパーでの職場実習



就労セミナー

9



働く障害者のための交流拠点事業 たまりば

平成 27 年 5 月より、岡山市の受託事業として、「働く障害者のための交流拠点事業たまりば」の運営を行っています。岡山市内で働く障害者がいきいきと働き続けるために、仲間との交流を図ったり、気軽に仕事や生活の相談ができ、ゆったり過ごせる居場所として交流スペースを提供し、職場や生活上の相談支援を行います。平成 28 年からは、職場定着支援提供業務として、本人または雇用主からの依頼や相談により、職場訪問などによる定着支援を行っています。

対象となる人は、岡山市在住または岡山市内で働いている障害者、または岡山市在住の一般就労に向けて求職活動を定期的に行っている障害者の方です。

毎週、木曜日（午後 5 時～午後 7 時半）、日曜日（午後 2 時～午後 5 時）、岡山市北区表町のぱる・おかやまの交流スペースを提供し、利用者同士の交流や仕事上の悩みの相談を個別に受けたり、職業能力や生活能力を向上させるためのグループワーク等を実施しています。

また職場定着支援では職場訪問を行い、これまでの職場での様子や雇用主、本人が感じている課題の整理を行い、具体的な課題へのアプローチを行っていきます。

